

組織の目的とは何か 問い続ける

平成31年度第1回拡大委・学習会

新日本宗教育青年会連盟(新宗連青年会)宮口弘道委員長は4月13、14日、北海道札幌市で平成31年度第1回(拡大)委員会を開催した。

13日午後2時から、市内会場で委員会。平成30年度事業報告案と同決算案を審議し、原案通り承認。6月の新宗連理事会へ提出することを申し合わせた。第54回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典(8・14式典)」と「ユースフォーラム2019」については準備進捗状況を確認。第27次アジア青年平和使節団、第8回青少年育成セミナーについて意見交換を行った。

この後、地方連盟から活動状況の報告が行われた。14日午前9時半から、市内の立正佼成会札幌教会で「青少年育成について」をテーマに学習会を開催し、札幌新陽高校の荒井優校長が講演を行った。新宗連青年会の委員のほか、多くの立正佼成会が講師した。

荒井氏は同校の創設者の孫にあたり、2016(平成28)年に校長に就任するまでは、ソフトバンクのグループ企業で取締役などを歴任した。校長就任以降、定員を大きく下回っていた同校の改革を進め、「本気で挑戦する人の母校」をキヤッチフレーズに定員を上

連 会 宗 年 新 青



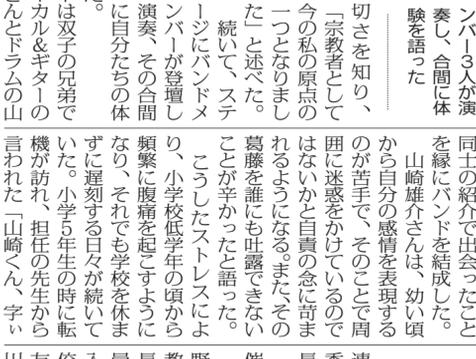
荒井優校長が講演を行った。新宗連青年会の委員のほか、多くの立正佼成会が講師した。

不登校テーマに講演ライブ

金光教大阪センター、大宗連と共催

金光教大阪センター(若林正信所長)と同和問題に詳しい大阪宗教学者連盟(青近連)栗原真澄委員長の共催による公開講座「不登校バンドがおくる心の授業」が3月30日午後1時半から、大阪市西区の立正佼成会大阪南門で行われた。

今回はロックバンド「JERRYBEANS」を招き、言葉と歌でメッセージを伝える「講演ライブ」という形態で実施。はじめに主催者を代表し、大宗連の若林正信議長



講演ライブでメンバー3人が演奏し、合間に体験を話した。

善光寺を参拝し学習

連盟50周年で企画 発表

青北関連 委員会交流会in長野

新日本宗教育青年会北関東連盟(青北連)宮澤敬一委員長は3月23、24日、長野県長野市と安曇野市で「委員会交流会in長野」を開催した。

1日は午後1時から、長野市の立正佼成会長野中央教会で開会式。受け入れの長野県委員会の小口精一委員長のあいさつ後、受け入れ教団を代表して、立正佼成会長野中央教会の瀬川友成会長があいさつ。瀬川川教会長は、交流会の参加

平和 島根と石川、2協議会で開催

学連会 島根と石川、2協議会で開催

新宗連が昨年からの全国協議会が浜田市の立正佼成会浜田教会で、また14日は石川県協議会が小松市の立正佼成会小松教会で開催した。

4月13日には島根県協議会が浜田市の立正佼成会浜田教会で、また14日は石川県協議会が小松市の立正佼成会小松教会で開催した。

善隣教

善隣教

金婚式を迎えた正子夫人があいさつした。

金婚式を迎えた正子夫人があいさつした。

良いことを続けることが大切

創立40周年立教祭 眞生会

眞生会(田中庸仁会長)は4月14日午前10時20分から、岐阜市の総本山眞生寺で「創立40周年立教祭」を開催した。

はじめに教団と各教会の「御旗」に続き、式衆が入堂。青年男子と女子、子ども会員らによる献花、献供、壮年による胎内仏の奉納など「奉納の儀」が厳かに行われた。

田中庸仁会長が入堂。婦人部が「詠歌」を奉納した後、田中会長導師のもと「布教誓いの祈り」を込めて一同で「先祖報恩総供養」胎内仏供養「胎内仏供養」の読経供養を行った。

小憩の後、祈禱の功績を讃える「心行表彰」と、新役員任命が行われた。田中会長が「眞教法話」田中会長はじめ無事に創

は、子どもの成長が欠かせません。子どもが良くなるためには、良い親になることが大切です。と語り、その上で、田中会長が日常生活の中で体験した例を紹介しながら、親子の握手本となるように努めることの重要性を説いた。

また、「精進」について、小さくても良いことを淡々と続けることと、自ら

らの救われから、開祖様の願う人様の救われを願い、感わず、迷わず教を實踐し、共に多くの方に伝えていきたいと思います」と布教推進を呼び掛けた。

続いて「グループ法座」が行われ、4、5人の法座の輪が本堂を埋め、各グループで日々の信仰体験や教えのありがたを分かち合

で、私たちが御皇室を宗とする日本の精神を伝える得る役目があることを自覚させていただきました。この巡拝の中で学んだことを今後の宗教活動、そして生活の中で生かし、多くの

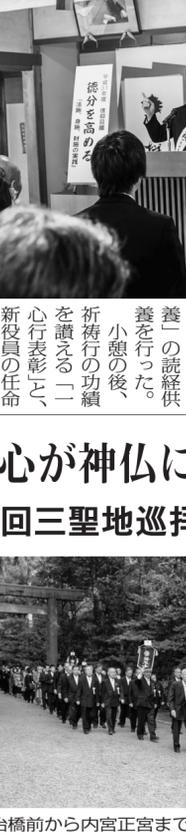
善隣教(力久道臣教主)は3月29日午前10時半から、福岡県筑紫野市の本庁聖堂で、「第76回聖主誕生祭」を執り行い、76歳を迎える力久隆聖主の誕生日と、金婚式を祝った。

「必笑」の精神で人助けを

神國づくり、施愛の実践に必笑で精進することをお誓い申し上げます」と決意を

和の心が神仏に通じる

第79回三聖地巡拝 解脱会



内宮宇治橋前から内宮正宮まで参進(2日)

解脱会(本部東京、四一から三日にかけて、「第79回三聖地巡拝」を挙

た。巡拝団は伊勢神宮、橿原神宮、御寺泉涌寺の各聖地を巡り、「国恩報謝の誠を誓う」とともに、世界平和の祈りを捧げた。

4月1日午後3時半、参加者は三重県伊勢市の伊勢神宮の外宮前広場に集まり、結団式を挙げて、はじめに岡野英夫団長があいさつ。新元号が「令和」と発表されました。「和を以て尊しとす」とあります通り、解脱会剛毅(岡野聖憲会相)は巡拝にあたり「和していこう」が大切である」とおっしゃいました。

和そうとする心が神仏に通じることと、この御代わりの中

り、荒井氏は「学校も宗教も次世代を担う子どもたちを育てることに大切。生徒が自分で調べたり学んだりしていく中で、大きく変化していくものを超えていくことがこれからの学校教育の意義ではないか」と問いかけた。

講演の後、新宗連青年会委員らと昼食を共にしながら懇談。新宗連青年会委員から講演の感想や質問があった。

目当たりには、いつか自分も同じようにいじめられるかもしれないかと思ってしまうのではないかと話した。山崎さんは、その女の子の自殺や不登校の親の会で出会った仲間が自分を救った。山崎さんは、その女の子の自殺や不登校の親の会で出会った仲間が自分を救った。山崎さんは、その女の子の自殺や不登校の親の会で出会った仲間が自分を救った。

「こんな自分でも人を喜ばせることができるんだ」と実感することができた。と語り、金光教有志のバンド「ハイレーズ」や立正佼成会の青年有志のコーラス演奏を行った。

アンコール演奏では、「大丈夫」という曲を演奏し、「大丈夫」「孤独なんかじゃないから」「大丈夫」終わるまで歌を歌った。

善隣教

善隣教

金婚式を迎えた正子夫人があいさつした。

金婚式を迎えた正子夫人があいさつした。

この後、参集した信徒一同が金婚式のお祝い言葉を述べ、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

祝電披露の後、正子夫人があいさつ。教母(教祖夫人)が教祖を支えてきた姿を語り、聖主を支えてきたことを振り返った。そして聖主が「千日大伝道行」660日目に高熱を出した時(2002年1月)「それは頂いた」(「陽光」)と語り、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

この後、参集した信徒一同が金婚式のお祝い言葉を述べ、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

祝電披露の後、正子夫人があいさつ。教母(教祖夫人)が教祖を支えてきた姿を語り、聖主を支えてきたことを振り返った。そして聖主が「千日大伝道行」660日目に高熱を出した時(2002年1月)「それは頂いた」(「陽光」)と語り、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

この後、参集した信徒一同が金婚式のお祝い言葉を述べ、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

祝電披露の後、正子夫人があいさつ。教母(教祖夫人)が教祖を支えてきた姿を語り、聖主を支えてきたことを振り返った。そして聖主が「千日大伝道行」660日目に高熱を出した時(2002年1月)「それは頂いた」(「陽光」)と語り、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

この後、参集した信徒一同が金婚式のお祝い言葉を述べ、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

祝電披露の後、正子夫人があいさつ。教母(教祖夫人)が教祖を支えてきた姿を語り、聖主を支えてきたことを振り返った。そして聖主が「千日大伝道行」660日目に高熱を出した時(2002年1月)「それは頂いた」(「陽光」)と語り、正子夫人に花束と記念品の目録が贈呈された。

春を迎え 各地で祭り

先達の思い受け継ぎ精進を 聖観音像春季大祭を執行 天真教

天真教(神出修二教主)は3月21日、三重県伊賀市の本部で「第48回世界助けの聖観音像春季大祭」を執り行い、三社殿に拝礼し、聖観音像は「神名・大納言之宮千願不動慈悲菩薩千手観音大権現像」として、1972(昭和47)年3月に故神出房江教祖が祀ったもので、春秋彼岸の中日に開扉し大祭を行って

午前10時、平安城神前で高主の神出修二教主が前祭を執り行い、三社殿に拝礼、天真武之命に守り刀を授けた。続いて、参列者は天真武之命に従い神輿に「天真王之命」を遷座した。福寿旗、剣持、槍持、七福神、斎主、神輿、轎を持つた信徒らが平安城前を出発し、天真大真義文「無一空一我無也」と唱えながら、「花園のお地場」まで練り歩いた。

天真院大奉燈拜殿で本祭を執り行い、松本清次信徒副会長があいさつした。

平安城前から「花園のお地場」まで練り歩いた。

道場の須弥壇正面には会主と大導師の「ご尊影」と「ご法號」を安置し、満堂の会員が須弥壇を拝して玄壇三唱し、開式。続いて男女青年部員による献灯・献華・献供の儀が厳かに行われた。

導師の宮本恵司法嗣が入殿し、祈願文を奏上。「会



天真教(神出修二教主)は3月21日、三重県伊賀市の本部で「第48回世界助けの聖観音像春季大祭」を執り行い、三社殿に拝礼し、聖観音像は「神名・大納言之宮千願不動慈悲菩薩千手観音大権現像」として、1972(昭和47)年3月に故神出房江教祖が祀ったもので、春秋彼岸の中日に開扉し大祭を行って

の思いを受け継いでいきます」とこれからのさらなる精進を誓った。

聖観音への拝礼に続き、斎主の神出教主による祝詞、祝詞奏上。その後、参列者を代表して曾我直己信徒会会長が玉串を奉奠した。

神出教主の拍子木に合わせ、全員で「無一空一我無也」を奉唱する中、毘沙門天の手により聖観音像を祀る社殿の扉が開かれた。この後、参列者が「世界平和」と「人類の幸福を祈願し、

七色の風船を放った。「福寿旗」の奏上、参列者全員で般若心経奉誦、神出教主が「七福の鈴のお授け」を行い、信徒らは手ですくうようにして拝受した。この後、参列者一人ひとりが聖観音像社殿の正面に移動して聖観音像に参拝し、神水とご洗米、「生まれかけのうよ」と書かれた卵を授け取った。最後に御真言を全員で奉誦した。式典後、恒例の七色の餅まきが行われ、参加者全員で直会が催された。

み教えで人情を慈悲に変える 春の大法要を厳修 妙智會教団

妙智會教団(本部東京・代々木、宮本恵司法嗣)は3月28日午前9時半から、千葉県九十九里町の千葉聖地大道場で「春の大法要」を厳修し、宮本ミツ子主宮本文靖大導師に報恩感謝の誠を捧げた。

春の花々に荘厳された大道場の須弥壇正面には会主と大導師の「ご尊影」と「ご法號」を安置し、満堂の会員が須弥壇を拝して玄壇三唱し、開式。続いて男女青年部員による献灯・献華・献供の儀が厳かに行われた。

導師の宮本恵司法嗣が入殿し、祈願文を奏上。「会



妙智會教団(本部東京・代々木、宮本恵司法嗣)は3月28日午前9時半から、千葉県九十九里町の千葉聖地大道場で「春の大法要」を厳修し、宮本ミツ子主宮本文靖大導師に報恩感謝の誠を捧げた。

互いに感謝のできる働きを 春季大祭・節分札納礼祭 田心教

田心教(深田充啓教主)は4月6、7の両日、兵庫県丹波市の本部本道場で「春季大祭」を執り行った。

両日とも大開式に先立ち、本道場で昨年の立教百年祭の無事成功を契機に制作された「百年太鼓」が披露された。

6日は午後零時半から開式、深田充啓教主が入場した。9人の女性が献花・献儀・献茶の「献上の儀」で真殿を荘厳し、深田恵子恵子の主導師による「おつとめ」を行った。

続いて、本部参拝長寿祝いの記念品贈呈式が行われ、米寿、傘寿を迎えた信者らに深田教主から記念品



田心教(深田充啓教主)は4月6、7の両日、兵庫県丹波市の本部本道場で「春季大祭」を執り行った。

稚児の成長を祝い 拍手を送る 釈尊降誕会 第二部では飯田氏が講演 思親会

思親会(飯島法道会長)は4月7日午前11時から、神奈川県伊勢原市の思親大宮殿・大聖堂で「釈尊降誕会」を執り行った。

大聖堂で式典に先立ち、釈尊降誕会開会式が、稚児祝賀会が行われた。参列者は大聖堂横に集合し、高台にある仏舎利塔に向かい礼拝した後、仏舎利塔へ向け参進。仏舎利塔前で、飯島法道会長を導師に、釈尊の誕生について解説。釈迦が生まれてすぐ7歩歩き「天上天下唯我独尊」と言ったことについて、7歩に「六道」(迷いの世界)から「一歩出て幸せになる」ということ、「天上天下唯我独尊」には人間のみならず、動物も尊い生命があることを示していることを説明。

映像作品「仏陀一途かなる旅路」を視聴した後、内島事務局長は「法華経は実践の教え」と説き、さらなる広宣流布を呼びかけた。

続いて、稚児が会場に入場。一人ひとり紹介され、壇上に並び、稚児の代表者大聖堂で稚児一人ひとりが紹介された。

神のはたらきは倫理の根源 春の大祭 行う 玉光神社

玉光神社(本山一博宮司)は4月8日午前10時から、東京・井の頭の神社本道場で「春の大祭」を執り行った。

斎主の本山一博宮司と斎員が入座。修祓に続き、本希望とともに、大きな花を咲かせていただきます」との思いを述べた。

続いて教典の一節を用い、日常生活において出る「愚痴」について、「それは自分の思いのままに思うことが原因です」と述べた。

「まず人様に」と思う気持ちの大切さを説き、「相手」を思い、相手と語り、そして共に行動する事が信仰する私たちに必要だと、とても大切だと述べた。

「お互いに感謝のできる働きに努めさせていただきます」と、それが教祖様の願いです」と述べた。

大祭終了後、聖地内の「お火所」において「節分札納礼祭」が行われた。また午後7時から、五法閣1階の特設会場にて桜を愛でる「観桜会」が催された。



玉光神社(本山一博宮司)は4月8日午前10時から、東京・井の頭の神社本道場で「春の大祭」を執り行った。

行政との連携など課題をめぐり 宗教の社会貢献を議論 庭野平和財団 公開シンポジウム

庭野平和財団(庭野浩志理事長)は3月28日午後1時15分から、東京・麹町の弘済会館で公開シンポジウム「日本宗教の現状と課題」を開催した。

宗教団体の社会貢献活動調査から見えるもの」を開催した。

庭野平和財団はこれまで2008(平成20)年、12(2008)年、16(2008)年の3回にわたって「宗教団体の社会貢献活動に関する調査」を実施してきた。今回調査は「宗教団体の行ってきた社会貢献活動の認知」をテーマとし、「期待する活動」などを聞くもので、今回のシンポジウムは調査結果を踏まえ、現場からの報告を交え、宗教の社会貢献の在り方について議論を交わした。

はじめに、國學院大学教授・副学長の石井研士氏が「調査の結果を報告。3回の調査で、宗教団体の社会貢献活動の認知度が上がってきた」と述べた。

宗教団体が行う社会貢献活動の評価も「やや好転しつつある」との見解を示した。他方で、宗教団体が母体となる学校経営の認知度が約

先祖の霊の解脱祈り浄霊 春季浄霊祭を執り行う 掬宮界教団

掬宮界教団(林玄光法主)は3月21日午前9時半から、大阪府交野市の本部雲山光明園で「平成31年春季浄霊祭」を執り行った。

斎主の林玄光法主と7人の斎員が入場。「御降神諱詞」「清魂諱詞」と続き、「戸の御式」で修祓を行った。各種諱詞の奏上に続き、林法主が「春季浄霊祭御請願諱詞」を奏上。先祖の「法名」を記した金銀の御幣(「御幣帛」)が設置された左右3対の立塔に向かい、林法主が中央に捧げられた黄金の紙垂がついた大幣で浄霊の儀を行った。

続いて、林法主を導師に「朝夕礼拝諱詞」を奏上。林法主が参列者の方に向かい、「動行要文」を



掬宮界教団(林玄光法主)は3月21日午前9時半から、大阪府交野市の本部雲山光明園で「平成31年春季浄霊祭」を執り行った。

飯田氏は、20歳の頃に高熱を発したことを契機に、亡くなった人からのメッセージを受け取るようになった。それを受け取る人になり、それを生きている人へ届ける活動を、37年間続け、死後には「十分に愛されたか」「学んだか」「使命を果たしたか」と問われると話し、それらの点を意識して生きることの重要性を説いた。

また、体を持つことは魂だけではないこと、魂が理解できる範囲を超えているので、科学的研究の対象にはならないと語った。亡くなった人とのコミュニケーションの仕方と生き加者に呼び掛けられた。

登壇者全員でディスカッションを行った。

教団教師の上田博子氏、シヤンティ国際ボランティア会理事の茅野俊幸氏、早稲田大学マネージャーの片岡平和氏が報告。

その中で稲場氏は、東日本大震災で宗教施設が避難所となるなど力を示したと述べ、熊本地震の際には宗教団体と行政(社会福祉協議会)との連携が多く見られ、「画期的」だったと評価した。また、東京都宗教連盟(都宗連)と共同で行った「東京都宗教施設における平時・災害時の受入体制調査の報告」を行い、アンケートに答えた3割以上の宗教施設が耐震基準を満たしており、災害時の協力拠点として期待できると述べた。また、災害時に宗教施設が避難者を前払いする、その地域でのその後の活動が困難になる可能性があるとして、「災害への備えをしておくことは必要」と指摘した。

4氏の報告の後、筑波大学教授の山中弘氏がコメント。社会貢献活動において教団によって得意な分野があること、今回、宗教を超えて情報を共有できたことは大きい」と評価。最後に登壇者全員でディスカッション。団体名にキリスト教など宗教を付けない行政などから援助を受けられない、行政側の担当者によって対応が変わるなど、行政との連携における課題などが話し合われた。

